

問1 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。（2018年 香川公立入試 類似）

1. 貝塚 2. 古墳 3. 環濠集落 4. 高地性集落

問2 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた  
2. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた  
3. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた  
4. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた

問3 縄文時代の人々が、遮光器土偶に見られるような独特な形をした土製品を多く製作した理由として、当時の社会背景から考えられる背景はどれですか。（2026年 千葉公立入試 類似）

1. 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。  
2. 強力な王が国を統一し、自分の権力を誇示するために同じ形の像を大量生産させたため。  
3. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出するための芸術性を追求したため。  
4. 金属器がまだ普及しておらず、全ての調理器具や狩猟道具を土で作る必要があったため。

問4 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 山口公立入試 類似）

1. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。  
2. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。  
3. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。  
4. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。

問5 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 竪穴住居 2. 高床倉庫 3. 寝殿造 4. 書院造

問6 縄文時代の始まりにおける自然環境の変化と、それに対応した食料資源の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の实やシカ、イノシシなどが豊富になった  
2. 気候の寒冷化にともなって針葉樹林が発達し、マンモスやナウマンゾウなどの大型動物が主な食料となった  
3. 海面の上昇によって沿岸部が失われたため、人々は内陸の山岳地帯に移動して大型動物の狩猟のみに専念した  
4. 乾燥した気候に変化したことで草原が広がり、それまで行われていた採集に代わって家畜の放牧が始まった

問7 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた  
2. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された  
3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した  
4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

問8 山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。  
2. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。  
3. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。  
4. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。

問9 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットウシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民と明記されている人々を何と呼びますか。（2026年 埼玉公立入試 類似）

1. アイヌ民族 2. 琉球民族 3. 渡来人 4. 大和民族

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 貝塚	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問2	<b>答え 3</b> 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問3	<b>答え 1</b> 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。	縄文時代は自然の産物に依存した生活を送っていたため、気候変動による食料不足や病気は死に直結する大きな脅威でした。科学的な知識が限られていた当時、人々は「祈り」を通じてこれらの問題を解決しようとしました。そのため、女性の生命力を象徴する土偶などを通じて、食物が豊かになること（豊穡）や、部族の繁栄を願う呪術が発達したと考えられています。
問4	<b>答え 1</b> 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。	氷河時代が終わり地球が温暖化したことで、海面が上昇して日本列島が大陸から切り離されました。この時期から始まる縄文時代では、人々は定住を始め、地面を掘り下げて床とした竪穴住居に住むようになりました。自然環境の変化によって出現した中小動物を射止めるための弓矢が普及し、植物の採集や、骨角器を用いた漁など、自然の恵みを多角的に利用する生活へと変化しました。稲作や高床倉庫は後の弥生時代、古墳は古墳時代の特徴です。
問5	<b>答え 1</b> 竪穴住居	縄文時代、弓矢の発明や土器の使用によって食料の獲得・保存が安定したことで、人々は移動生活から一箇所にどどまって暮らす定住生活へと移行しました。地面を数十センチメートルほど掘り下げて床にすることで、冬の寒さや夏の暑さをしのぎやすくする工夫がなされており、この構造の住居は弥生時代以降も長く使われ続けました。
問6	<b>答え 1</b> 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の実やシカ、イノシシなどが豊富になった	温暖な気候への変化により、日本列島にはブナやナラなどの落葉広葉樹や照葉樹の森が広がりました。これにより、人々の重要な食料となるクリやドングリなどの木の実が採れるようになり、またこれらの森をすみかとするシカやイノシシといった中小動物が増加したことで、狩猟・採集を基盤とする縄文文化が発達しました。
問7	<b>答え 1</b> 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問8	<b>答え 1</b> 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	「縄文の女神」は、山形県の西ノ前遺跡から出土した縄文時代を代表する土偶です。土偶は縄文時代特有の遺物であり、その造形からは当時の人々の高い技術力や、精神世界を知ることができます。弥生時代に広まった青銅器や、古墳時代の埴輪とは、製作された時代も文化的な背景も明確に区別されます。
問9	<b>答え 1</b> アイヌ民族	北海道とその周辺に独自の文化を築いてきた人々で、2019年に施行された「アイヌ施策推進法」により、初めて法的に「先住民族」と位置づけられました。樹皮を用いるアットウシのほか、サケ漁や狩猟を中心とした生活様式を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化を持っています。